

# テーマ: 感触あそび

## テーマを設定する

・昨年度、ジップロックに入れた絵具で感触あそびを経験したことから、今年度になって小麦粉粘土で遊んだ。指に付くことを嫌がる姿が見られたので、環境を変えたり、粉から作ることで興味を持って遊べるのではないかと考えたため。

## 活動①小麦粉粘土 環境をデザインする

・ブルーシートを敷いて床で行う。

### ○準備した物

小麦粉

ブルーシート

### 探索活動を実践する

#### ○活動内容

- ・導入として、絵本「しろくまんのホットケーキ」を見る。
- ・保育士がブルーシートの上でボウルに小麦粉を入れるとすぐに触り始め、洋服について粉だらけになっている。
- ・そこに水と油を加えて保育士と一緒に混ぜて粘土を作り遊んだ。

#### ○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり

- ・ボウルに入れた粉を触ったり、握ったり、足につけたりと粉を楽しんでいた。
- ・水を入れると感触が変わり、嫌がる子もいた。手から取れない「べとべと」乾燥して「なにこれー?」と言ったり、手から取れなくて「取ってー」「洗う?」と訴える子もいた。
- ・粘土が出来上がると触り始める子が増えた。
- ・白＝救急車、新幹線、おにぎりというイメージを膨らませて遊ぶ。保育士に何か作ってほしくて持ってきたり、食べ物に見立てて食べる真似をして遊ぶ。長くした粘土を振り回してみたり、ボールにして投げて遊ぶ子もいた。
- ・終わったあとに「水入れた」と思い出して話す子もいた。



## 活動スケジュール

活動内容	時間	人数
① 小麦粉粘土 (6月13日)	1時間程度	15名
② 色付き小麦粉粘土(7月15日)	1時間程度	15名
③ 紙粘土を使って (11月28日)	1時間程度	15名
④ クッキー作り(2月13日)	1時間程度	15名

## 振り返りを踏まえた気づき

- ・普段と違うブルーシートを使ったことでみんなが楽しめた。また、広く使うことで保育士も子どもも自由に関わりながら遊ぶことが出来た。
- ・粉から一緒に作ることで変化を楽しむことができた。
- ・手だけでなく足でも感触を楽しむことができた。
- ・片付けも子ども達の前で行うことで、最後まで楽しむことができた。
- ・保育士が子どもの遊びを否定することがなく、のびのび遊べていた。

## 活動②色付き小麦粉粘土 環境をデザインする

- ・前回同様、ブルーシートを敷いて行う。

### 探索活動を実践する

#### ○活動内容

- ・前回のすくわくでの小麦粉粘土あそびで「さらさら」「べたべた」などの言葉が出てきた。
- ・その後、保育の中で絵の具遊びを通して色に興味を持つ。そのため、今回は小麦粉粘土に色をつけて遊ぶ。

#### ○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・小麦粉粘土を回数を重ねたこともあり、保育士が粉・水を用意すると粘土にすることが分かり、こねていた。
- ・「サラサラ」「ベタベタ」など前回のことを思い出しながら言っている姿も見られた。
- ・導入で絵本“どんな色がすき”を読んでから粘土遊びを始めたことで、保育士が「何色が好き？」と聞くと「あお」「あか」と答える子が多かった。
- ・赤の色をつけると「はしご消防車」などイメージして言う子もいた。
- ・保育士が粘土を再び作ろうとすると「いいね～」と言う子もいた。
- ・粘土を触り「冷たい」と表現していた子もいた。
- ・子どもたちが足で粘土の感触を楽しんでいたところから靴を作り楽しんだ。
- ・夕方の保育でも粘土を出すと喜び、ちぎったり投げたり飴にしたりして遊んでいた。

#### ○準備した物

小麦粉、絵具(赤、青、黄色)、  
ブルーシート



#### 振り返りを踏まえた気づき

- ・導入から活動に入ったことで色をつけることがスムーズだった。
- ・子ども達が発見したことを保育士も一緒に楽しむことが出来た。
- ・2回目ということもあり、1回目に行った“水をいれる”などの工程を子ども達と一緒にやったことで覚えていて、子ども達が率先して行うことが出来た。
- ・1回目よりも集中して行う時間が長かった。

## 活動③紙粘土を使って

・前回同様、ブルーシートを敷いて行う。

## 探索活動を実践する

### ○活動内容

・散歩で訪れる公園は木々が豊かで子ども達は秋の落ち葉や木の実拾いを楽しんでいる。新聞紙遊び、花紙ちぎりの製作、キャベツやキノコちぎりの食育活動など様々な経験をし手指を器用に使えるようになってきた子ども達である。今回のすくわくプログラムでは、保護者や子ども達自身も見ることができるよう市販の粘土を使用し、色を加えて子ども達が手指でこねる、ちぎるなどを行い「秋の木」を製作した。

### ○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

初めて見る市販の粘土にで子ども達の目が輝く。保育士が約束事を伝えると皆真剣に頷いて聞いていたが、不慣れなことが苦手な子は「こわい」と話す。各々に粘土を渡すと感触を確かめ色々な形に変わること気づき全員が捏ね始める。絵の具(赤、黄、オレンジ)を加え練り込んでいくと色の変化に気づき、「きれい」「あか」と話す。保育士が木の幹の模造紙を出しボンドを塗ると刷毛塗りを手伝おうとする子もいた。模造紙に色粘土をちぎってのせていくように伝えると子ども達も「はっぱ」「はっぱだね。」と話す。「おばけのはっぱ」「消防車」「みかん」と話す子もいた。子ども達がボンドのついた幹のまわりに色粘土をちぎってのせ大きな木が出来た。



## 環境をデザインする

### ○準備した物

紙粘土、模造紙、絵の具、ボンド、刷毛

ブルーシート



## 振り返りを踏まえた気づき

・壁面には紅葉の公園で遊ぶ子ども達の写真も貼られ、紙芝居の導入もあり自然な流れで秋の木を作る準備が整っていた。・口に入れない、という約束を子ども達が理解していた。・白い粘土で感触を楽しんだ後色をつけて大きな幹を出す。子ども達に押し付けるのではなく、自然な流れで保育士たちが「葉っぱ」「はっぱだね」、と話す声が聞こえ子ども達も気持ちが葉っぱをつける気持ちになっていた。始めは遠くから見ていた子もいたが、段々に興味が湧いて近くに来ることができその後感触遊びを楽しんでいた。職員も共に行うことで、子どもたち全員感触遊びを楽しむことが出来た。

・白い紙粘土の状態では「粘土」「雪」と言っていたが、木の幹が書かれた模造紙が出てくると「ねんど」から「葉っぱ」「葉っぱちょうだい」と言い方が変わってきて子どもと保育者のイメージの共有が生まれる。

・事前に幹の制作をしたと時のことを覚えているようでボンドを保育者がつけている際に、絵の具と思った子は刷毛でボンドをつけようとする。

## 活動④

### ・クッキー作り

## 環境をデザインする

### ○準備した物

・小麦粉・バター・牛乳・砂糖・ボウル

## 探索活動を実践する

### ○活動内容

・小麦粉粘土、色付き小麦粉粘土、紙粘土と感触遊びをしてきた。さらに食育でバナナケーキのクッキングも行った。食材に興味を持ち、こねる、ちぎる、まるめるなどの感触、作ることの楽しさを味わう。

### ○活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関り

- ・手洗いの際、「ぎょうれつだね」と言い自然と並んで待つ姿がある。
- ・手洗い後、周りを触らないように両手を合わせていたり、腕まくりをしたり、静かに待つ姿がある。
- ・栄養士からの「クッキー作りをします」に対して「イエーイ」と喜んだり、約束事では頷きながら聞いている。
- ・他のクラスの保育士が来ると「クッキー作るの」と教えている。
- ・最初にバターを入れたボウルをグループに配ると「まださわらない」と周りの子と確認し合う。
- ・混ぜるときにはやりたがる子に対して隣の子が「じゅんぱんね」と諭す場面もある。混ぜる子、ボウルを支える子と役割ができていいる。「楽しい！」と言っている。他のチームの進み具合を見る子もいる。
- ・砂糖を混ぜると「砂糖さんかくれんぼ」といいながら混ぜる。
- ・牛乳を入れるとボウルが冷たくなり「つめたーい！」と気づく。
- ・小麦粉を入れて混ぜながら「いいにおい」黄色から「バナナのおい」と言う。
- ・生地がまとまり保育士が「ボールみたい？」と聞くと「投げない！クッキーだから」と作っている物を理解している。
- ・保育士の真似をしてケーキのように重ねてみたり、できた形を乗り物に見立てたり、つぶすことや大きくまとめることを楽しむ子がいる。



### 振り返りを踏まえた気づき

- ・今までの活動や、数日前から「クッキー作りをする」ことを話していたこともあり、全員が最初から興味を持って参加することができた。
- ・バナナケーキ作り、りんごケーキ作りを通して、食べ物を作るということを理解して取り組むことができた。
- ・クッキーの形を作ることも楽しめる子が数名いた。
- ・おやつ時にも「○○が作った○○の形ある」と自分で作った形を覚えていて、楽しい経験ができたことが伝わってきた。